

学年	教科等	題材名	日時
第4学年	音楽科	かけ合いと重なり	平成30年10月25日(木)6校時
本時における「深い学び」	本時における「深い学び」とは、もみじの舞い落ちる様子に合わせて声を出すという導入での体験を基に、「ただ歌うのではなく、もみじの様子にもっと合った表現をしたい」という思いをもち、さらにこの思いを、工夫して歌唱表現につなげようとする状態である。そのために、導入では、実際のもみじの葉を落として舞わせ、それに合わせて声を出させることで、やさしい声の出し方や、ゆるるように強弱を変化させる方法を体感させてから、実際に表現を工夫する活動へ入った。		

音楽科学習の学びを深めるための思いや意図をもたせる導入の在り方（一単位時間の導入）

もみじの葉に合わせて声を出す



この落ちていくもみじの葉に合わせて、声を出してみましょう。

あ～。(やさしく)
あ～あ～。(ゆるるように)

なんか、ゆれて落ちていくから、「あ～あ～」と強弱を変えてみようかな。

ティッシュ箱はドスンと落ちたから大きな声だったけど、もみじの葉はゆっくりだんだん消えるように声を出しました。

どんなふうに声を出したかな？





一単位時間の学習への思いや意図へ

今日は、最初にもみじが落ちる様子から出てきた「やさしく、かるやかに、ひらひらと落ちるように、やさしく」というもみじが表せるといいですね。

そのためには…

強弱や、声の出し方を工夫すると様子が表現できそうですね。





歌い方の工夫（個人→グループで歌ってながら…）

もみじがゆるる様子を表すために、(強弱を) のようにして、強弱の波を作ろう。

かけ合いは、まねっこするみたいにしよう。最初が *mp* だから、下のパートも *mp* がいいよ。

私たちは、ひらひらと落ちる様子を表すために、最後を を付けて小さくしてみました。

一つのグループの工夫をみんなでやってみよう

上のパートの人たちは、最後のところは小さく歌ってください…。

聴いている人に、自分たちの工夫したことは伝わっているかな？




導入で、もみじの落ちる様子に合わせて声を出させたことで、その後の表現の工夫でも、その時の声の出し方や強弱を意識している姿が見られた。教師主導で思いをもたせてしまったので、もっと子どもと対話しながら思いを引き出していくことが必要である。また、歌詞が表す情景の美しさも併せて伝えられるような場面を設定することで、さらに表現の工夫も深まると考える。

授業実践計画



○ 指導計画（5時間）

- (1) かけ合いや重なりについて題材全体への思いや意図をもつ。————— 1時間
- (2) かけ合いや重なりから生まれるよさやおもしろさを生かして「もみじ」を合唱する。————— 3時間
 - ・ 「もみじ」の各声部を練習し、二部合唱をする。・・・ 1
 - ・ 思い浮かべた「もみじ」の情景を工夫して表現する。・・・ 2(本時1/2)
- (3) 「アラホーンパイプ」を鑑賞し、かけ合いや重なりと曲想とのかかわりを考える。————— 1時間

○ 本時の目標

実際に舞い落ちるもみじの様子から、もみじの曲が表現している情景を想像し、思いや意図に沿って歌い方を工夫することができる。

○ 指導過程

学習活動及び学習内容	教師のかかわり
<p>1 もみじが舞う様子に合わせて声を出す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ もみじの観察 ○ もみじの様子表現 ○ 本時学習のめあて <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>もみじの様子に合わせて歌い方を工夫しよう。</p> </div> <p>2 本時学習について見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 本時学習の流れの確認 <ul style="list-style-type: none"> ・ もみじの共有 ・ 表したい様子に沿った表現の工夫 ・ グループ毎に発表→全体で歌唱 <p>3 どのようなもみじの様子を表現したいか思いや意図をもち、共有する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「もみじ」の曲への思いや意図の思考と共有 ○ 前半部と後半部の歌い方の違いについて <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: flex-start;"> <div style="text-align: center;">  <p>【前半部：かけ合い】</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>【後半部：重なり】</p> </div> </div> <p>4 3での思いや意図を基に、グループで歌い方を工夫し、発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 前半部の歌い方の工夫 <ul style="list-style-type: none"> ・ 個人での思考 ・ グループで歌唱しながら ○ グループ毎の発表 <ul style="list-style-type: none"> ・ 工夫した演奏 ・ 自分たちの思いや意図の発表 <p>5 まとめの歌唱を録音し、それを聴いてふりかえりを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 採用されたグループからのアドバイス ○ 全体の歌唱と録音 ○ 録音した歌のふりかえり 	<ul style="list-style-type: none"> ○ それぞれの葉の動きに合わせて声を出させることで、様子に合った声の出し方やその方法をつかむことができるようにする。 ○ 声の出し方や気を付けたことを発言させ、教師が板書にまとめることで、表現の工夫の際にこの体験を生かして考えることができるようにする。 ○ 「この曲のもみじはどう表現したらよいだろう。」と発問することで、「色々な歌い方を工夫して、もみじの様子にもっと合った表現をしたい」という思いをもたせ、めあてにつなげられるようにする。 ○ 全体で思いや意図を共有させることによって、「そのような表現をするためにはどうすればよいか」という共通課題をもってその後のグループ活動等に臨むことができるようにする。 ○ 楽譜を一部拡大して提示し、前半部と後半部の特徴に気付かせ、「同じ歌い方でいいのか。」と問うことで、曲の構造と曲想とをかかわらせながら歌い方の工夫ができるようにする。 ○ まず個人で歌い方を工夫させた後、グループ活動に臨ませることで、自分の工夫を他者と共有し、考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 ○ 工夫が進まないグループには、板書を一緒に確認したり、導入で出した声の出し方を思い出させたりすることで、思いや意図に沿った表現の工夫をすることができるようにする。 ○ 発表の後、「どのグループの工夫が学級で考えた思いや意図に近いか。」と問い、選ばれたグループは、全体での歌唱時にアドバイスを言わせることで、学級全員で共通実践ができるようにする。

○ めざす子どもの姿

もみじの様子に合わせて声を出したときのように、強弱等を工夫することで、ひらひらと落ちてくる様子が表現できそうだ。上の旋律と同じように下の旋律も歌って、かけ合いをすれば、次々にもみじが舞い落ちる様子を表現できそうだ。

【思考・判断・表現】

